

第2章 話し合いの結果と市民からの提案

この章では、「こがねい市民討議会2009」での話し合いの結果をまとめ、市民からの提案の内容を詳細に述べる。

1 市民からの提案の概要

市民討議会での話し合いは、計3回行われた。合計特殊出生率が低下する中、子育てを地域全体で支えていくために、市民一人ひとり、また、地域、行政はどのように関与すべきかが統一されたテーマとして、話し合いが行われた（なお、テーマ選定趣意書については、参考資料に添付する）。

実行委員会で整理・分析した話し合いの結果の概要は、以下のとおりである。

【第1回話し合いの結果】

子育て、子育て、街育ち～子育てによい街とは～

① 世代間交流、新旧住民の交流を中心とした従来型の地域組織の再興により、

地域全体で子育てを支える街

② 子どもが安心安全に過ごせる場が十分に提供されている街

③ 子育てに対する経済的支援が充実した街

子育てによい街とは、世代間や新旧住民間の交流という「地域住民間の交流」のある街という声が多かった。地域交流により子育てに協力したいが、現実には、なかなか地域交流に参加できていないという、参加市民の悩みも受け取れる。

また、町内会、自治会などの地域組織の再生を願う参加市民の声も多かった。

一方、行政による支援、施設整備の拡充を求める市民の声も多い。子供の安心安全のため、子どもが安心して遊べる場所や過ごせる場所の整備を求める声が多かったが、手当等といった経済的支援を求める声もあった。

【第2回話し合いの結果】

情報の橋渡し～どうしたら伝えられるのか、どうしたら受け取れるのか～

① 子育て情報の集約・一元化

② 子育て情報の発信・共有のための拠点作り

③ 情報伝達手段を工夫・多様化し、必要とする市民に届ける

④ 行政・民間の連携による情報発信、行政には「ハブ」の役割を期待

行政の持つ情報（制度、施設、補助金等）や民間の持つ情報（評判、口コミ等）を、必要とする人にきちんと伝えるため、子育てコンシェルジュ等のコーディネーターの設置、子育て情報HPの設置により、情報を集約・一元化するよう求める声があった。

また、人の集まりやすい行政施設、駅、スーパー等に、情報拠点の設置を求める声が多かった。

さらに、情報をきちんと届けるためには、各種メディアやメールマガジン等により、情報伝達手段を多様化したり、今ある情報を見やすく工夫が必要であるとの意見が多かった。

こうした情報提供は、行政と民間が連携して行い、利便性の高い民間商業施設なども巻き込んでの多様な情報発信を、参加市民は求めている。

【第3回 話し合いの結果】

地域の子育てのためにできること

①市民一人ひとりの意識改革、地域団体への参加が、地域の子育ての活性化に

つながる

②行政には、市民のボランティア参加をバックアップする制度の創設・改善、

支援体制の充実を期待

地域の子育てを支えるためには、市民一人ひとりが、ボランティアや日頃の挨拶等を通じて、市民間交流を活性化させることが必要であり、そのために、自治会、町内会、子供会、PTA等の活性化を求める声が多かった。

子育て支援に関する制度の設立・改善を求める声も多かった。基本的には、市民ボランティアによる子育て支援を主としつつ、ボランティア参加のための制度づくり、行政支援を重視するものが多かった。

参加市民は、町内会等の地域団体が弱体化しつつあるなか、市民が地域の子育てに参加しやすいよう、行政に対し、各種制度を整え、その他支援体制を整えることを期待していた。

2 話し合いの分析の方法

実行委員会では、話し合いの内容を整理・分析を行うにあたり、アイデアをその趣旨に従って類型化を試み、話し合いの結果を市民からの提言としてまとめた。

3 テーマ毎の話し合いの内容

テーマ毎の話し合いの結果の詳細は、次頁以下に整理される。それぞれの話し合いについて、左頁では、話し合いの結果の分析・整理を行い、右頁では、話し合いの結果を集計・整理した表を記載した。なお、同表は、ワークシートの原文をそのまま記載するよう心掛けた。

【第1回話し合いの結果】

子育て、子育て、街育ち～子育てによい街とは～

①世代間交流、新旧住民の交流を中心とした従来型の地域組織の再興により、地域

全体で子育てを支える街

②子どもが安心安全に過ごせる場が十分に提供されている街

③子育てに対する経済的支援が充実した街

第1回話し合いにおいては、住民の交流を求めるもの、インフラの整備を求めるもの、経済的支援を求めるものという、3つの観点から整理・分析を試みた。

子育てによい街とは何かという問いに対し、住民間の交流を求める声が非常に多かった。「保護者の孤立・孤独」の問題は、情報提供者からも指摘されており、参加市民もこの問題意識を共有していたことが分かる。

自治会、町内会、子供会、防災会といった従来型の地域組織の活性化を求める声も多いが、世代間の交流及び新旧住民間の交流を求める声が特に多かった。

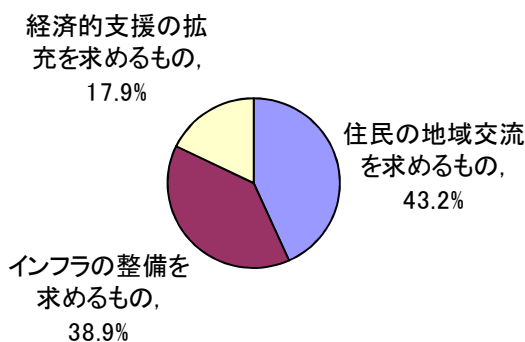
住民基本台帳から無作為抽出された市民討議会の参加者が、若者から年配者まで各年代によって構成されているため、年代の異なる参加者間での話し合い、意見交換(世代間交流)が行われた成果と思われ、地域交流により、子育て支援を活性化させたいが、そのために必要となる世代間交流が、現実には機会も少なく、うまく機能していないという、参加市民の悩みも受け取れる。

また、従来型地域組織の弱体化が叫ばれているなか、地域の連帯感が次第に薄まっていることへの不安に対し、地域組織の再興の願う住民の声が多かった。

一方、行政による支援、施設整備の拡充を求める市民の声は依然として多いが、子供の安心安全という観点から、子どもが安心して遊べる場所や過ごせる場所の整備を求める声が多く、手当等といった経済的支援を求める声は全体の17.9%にとどまる。

子育てスローガンについても、住民間の交流に焦点を当てたものが多くの票を集めており、参加市民が、保護者の孤立感・孤独感を解消するためには、地域の活性化により保護者を受け入れていくことが重要であると感じていることがわかる。

ワークショップにおいては、保護者(女性)グループは、子ども関係施設の充実、子育て情報の公開を求めており、子育てにおける日頃の切実な必要を踏まえ、具体的な要望が出されている。保護者(男性)グループは、比較的、具体的な利害から離れた客観的な視点から討議結果をまとめた。子育て支援団体関係者等グループは、専門的な視点から、地域におけるコーディネーターの役割を持つ人材の創設・育成、保護者の自主的子育ての支援等、専門的な視点からの意見をまとめるとともに、繰り返し提言しているにもかかわらず、なかなか具体的な政策実現には至らないことへの不満を表明し、ワークショップ参加者から多くの票を集めた。



【第1回話し合い 子育てスローガン】

スローガン	得票数
笑顔であいさつが出来る街(声かけ運動)	28
生まれてから成人まで安心できる制度と環境作り(自分の出来ることから参加しよう!)	18
コミュニケーションのかけこみ寺を作ろう!	16
あなたの子もわたしの子	12
みんなが見ている小金井っ子(街中が散歩道)	8
安心して住める街に!	5

【第1回話し合いの結果】

分類	話し合いの結果	得票数	得票率	
住民の地域交流を求めもの	世代間交流&新旧住民の交流 伝統的な文化と施設や行事の活用	21	82 43.2%	
	小中学校の教室開放(シルバー人材と子供の交流)	20		
	地域組織(自治会、町内会、子供会、防災会)の活性化	11		
	自治会(町内会)への積極参加(大人の意識改革)	10		
	日常生活を通じた地域とコミュニケーションの活発化	9		
	隣近所の交流を深める	6		
	親戚のおうちをたくさん作れる街	5		
インフラの整備を求めもの	公共施設の充実(保育園、図書館、病院(救急産科))	17	74 38.9%	
	安心して歩ける道がたくさんある街	14		
	子どもの居る場所の確保(市内あちこちに作る!)	10		
	市施設の利用の促進のため、情報の普及の方法を考える	10		
	大きい屋根(のある)公園を作ろう	8		
	街のインフラ、教育インフラの拡充(身近でボール遊びできる。一人で行ける公園など)	8		
	充実した生活空間の提供	7		
経済的支援の拡充を求めもの	子育ての経済的支援9プラン(※1)	15	34 17.9%	
	保育・医療・経済面での支援(学齢前の子育て)	11		
	行政支援の充実→つまりお金の問題 困っている人を支える制度作り	8		
その他	子育て対策11プラン(※2)	0	0	0.0%
	合計	190	190	100.0%

※1 ①児童手当の増額、②良質で普遍的な保育の提供、③子ども貧困ゼロ対策の財源は社会全体で負担する、④一時保育の日数を多く、⑤子どもへの声かけがある、⑥子どもを預ける費用を市でもう少し補助があるとよい、⑦貧困世帯の重い税金を軽減すること、⑨すべての住民が平等な支援を受けられること(⑧の付箋は存在しなかった)

※2 ①地域の安全性、②安心できる街、③子ども自身が気軽に相談できる人が近所にいること、④子どもだけで安心して遊べる場所があること(かくれんぼ、缶けりができるような)、⑤子どもを安心して預けられる場所に困らないこと、⑥産後ケアの充実、⑦出生率の上昇方策、⑧大人が子どもの手本となれること、⑨困ったときにすぐ対応してもらえる、⑩父親の子育て、⑪祖父母に子育て相談、⑫母親だけでなく周りのいろいろな人が子育てにかかわれるように(12通の付箋が存在した)

【第1回話し合い 残したい意見】

○子育てのための経済的支援の強化(少子化対策) ○環境整備(公園で遊びやすく。道路など。安全安心) ○雨の日の体育館を無料開放 ○自転車の交通ルールの指導徹底(ライトの点灯、ケータイ禁止)
○奨学金の枠を広げてほしい ○子育ての世代間ギャップ(食べ物など)を解消する研修、相互理解 ○応援ブックの周知徹底(全家庭への配布)

【第2回話し合いの結果】

情報の橋渡し～どうしたら伝えられるのか、どうしたら受け取れるのか～

①子育て情報の集約・一元化

②子育て情報の発信・共有のための拠点作り

③情報伝達手段を工夫・多様化し、必要とする市民に届ける

④行政・民間の連携による情報発信、行政には「ハブ」の役割を期待

第2回話し合いでは、まず、情報の集約・一元化、情報発信の拠点作り、情報伝達手段の工夫・多様化という視点から、整理・分析を試みた。

子育て情報には、行政の持つ情報（制度、施設、補助金等）と民間の持つ情報（評判、口コミ等）といった多様な情報があるが、それを必要とする人にきちんと届いていないのではないかという視点から、子育てコンシェルジュ等のコーディネーターの設置、子育て情報HPの設置を求める声があった。

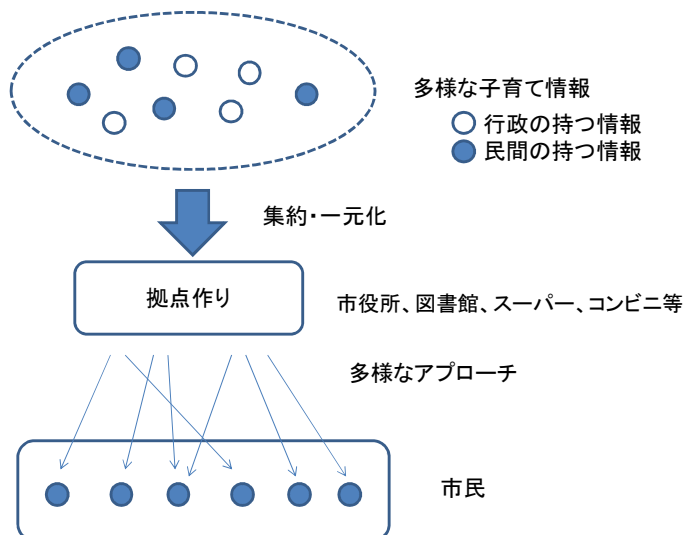
また、人の集まりやすい行政施設や駅等の公共施設、スーパー、コンビニ等の商業施設に情報拠点の設置を求める声が多かった。第1回話し合いを承継し、地域における情報交換の活発化や、孤立し孤独な保護者に対する情報交換の場の提供を求める声もあった。

さらに、各種メディアやメールマガジン等、情報伝達手段を多様化したり、今ある情報を見やすく工夫により、情報を必要とする人にきちんと届くように配慮することが重要であるとの意見が多かった。

次に、こうした情報発信の担い手をみるに、参加市民は、行政には「ハブ」の役割を期待しつつ、民間の役割にも期待していることが分かる。行政は情報発信には不可欠な存在である一方、行政には不得手な情報発信（たとえば口コミ、評判等）もあり、情報発信拠点も行政施設に頼ることには限界もあることから、利便性の高い民間商業施設なども巻き込んだ多様な情報発信を求めていることが分かる。

ワークショップにおいては、まさに子育て情報を必要とする保護者グループからは、子どもの成長、転入居等、情報発受のタイミングを重視したタイムリーな情報提供を求める声があった。また、子育て支援団体関係者等グループからは、情報提供手段の多様化や、市民が必要とする子育て情報とは何か？という視点から、市民参加型による情報発信への提言があった。

概念図



【第2回話し合いの結果】

分類	話し合いの結果	得票数	得票率	
情報の集約・一元化	市民子育てコンシェルジュの設置(行政による情報の連絡周知徹底)	39	110 40.7%	
	市民に応じた市役所のサービス提供(例、子どもが産まれたら担当の課を分かりやすく教えてほしいなど)	22		
	行政の対応 情報のコーディネーターを置く(ボランティアの人に活動依頼)(1階ロビーに専任窓口)	15		
	お父さん、お母さんになる人の為に(自主性の呼びかけ)、病院内のカウンセラー充実 妊産婦になったら	15		
	小金井の施設等(町内会、幼稚園、保育園など)の案内HPの設置	10		
	民間、地域の情報伝達サービス ポスターにて、コンビニ、民生委員、病院(予防接種)	9		
拠点作り	市役所がPRコーナーをコンビニ、スーパー、カフェ等の人の集まる場所に設ける	16	74 27.4%	
	みんながよく行く駅やスーパー、コンビニに小金井の情報提供の場が欲しい	14		
	所属がない人(未就学児の親など)への場の提供	14		
	箱物拠点、施設(小中学校、商店街、大型スーパー、民間会社)で案内する	12		
	地域コミュニティ、人的交流、情報の共有(自治会、子供会、サークル、寺・神社、図書館、公民館)	11		
	市の施設を活用する(市役所1階窓口、児童館、図書館、PRコーナー、見学会)	7		
伝達手段の工夫・多様化	母子手帳配布時にやる事リストをわかりやすく	25	86 31.9%	
	情報発信手段の拡充(メール・ご近所ネットワークの利用)	23		
	各種メディアの充実(メールマガジン、CS番組、ケーブルTV、HP等で紹介する)	14		
	情報を伝える手段を視覚的に訴えるようにする。種類による色分け、画で表現する。	12		
	たくさんある情報の探しやすさが重要	12		
	合計	270	270	100.0%

【第2回話し合い 残したい意見】

○子ども図書館設立 ○選択しやすい情報の作り方 ○施設の職員の年齢層の幅を広く！ ○小金井駅(コンコース、高架の壁面等)を活用する ○年配者を利用する(パンフレット、チラシの配布) ○マタニティマークと同じような子連れOKマークを店に貼る ○市のホームページを見やすくしてほしい ○相談員の充実をしてほしい ○市役所のボランティアの登録制度、システムを充実させ、周知させる。ボランティアスタッフの常駐場所の確保 ○市役所職員(もしくは外部スタッフ)にエキスパート、スペシャリストを採用、育成する。そのための研修などの充実 ○駅、バスターミナルでのブース設営 のびのびこがねいっ子の全戸配布→印刷コストを下げる！ ○待機児童ゼロ化、「子育ての街」小金井をアピール

【第3回 話し合いの結果】

地域の子育てのためにできること

①市民一人ひとりの意識改革、地域団体への参加が、地域の子育ての活性化につ

ながる

②行政には、市民のボランティア参加をバックアップする制度の創設・改善、支援体

制の充実を期待

第3回話し合いでは、市民一人ひとりの取り組みを重視するもの、地域活動の活性化を重視するもの、制度の設立・改善を重視するものという、3つの視点から、整理・分析を試みた。

地域の子育てを支えるためには、市民一人ひとりが、ボランティアや日頃の挨拶等を通じて、市民間交流を活性化させることが、子育て支援につながると考えたことが分かる。

次に、市民が地域の子育てに参加する母体としては、自治会、町内会、子供会、PTA等の既存の地域団体の活性化を求める声が多かった。

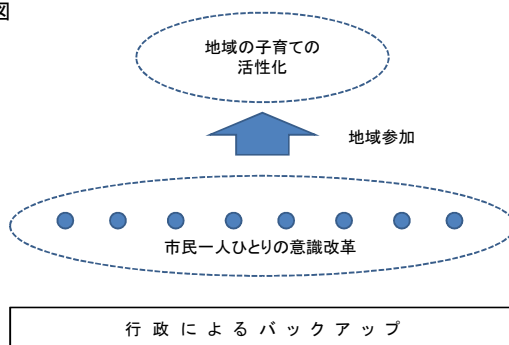
一方、最も票を集めていたのは、子育て支援に関する制度の設立・改善を重視するものであった。設立・改善が要求された制度は多岐にわたったが、基本的には、市民ボランティアによる子育て支援を主としつつ、ボランティア参加のための制度づくり、行政支援を重視するものが多かった。

市民が地域の子育てに参加するにあたっては、参加市民は、市民一人ひとりの意識改革の必要性、地域活動の活性化を説いたが、町内会等の地域団体が弱体化しつつある現状においては、行政のバックアップなくしては、地域の子育てに参加しにくい状況を巧みにとらえたものといえよう。

その点において、参加市民は、市民が地域の子育てに参加しやすいよう、行政に対し、各種制度を整え、その他支援体制を整えることを期待しているものといえよう。

ワークショップにおいては、保護者（女性）グループからは、「引きこもりがちなお母さんを引っ張り出す」という切実な視点から、保護者を地域に取り込んでいく方策の提案がなされた。保護者（男性）グループからは、日頃あまり子育てにかかわることの少ないという問題意識を反映してか、地域の子供と関わり合いを持つための具体的方策の提案があった。子育て支援団体関係者等グループからは、専門的な視点から、保護者の自立を支援するため、支援団体・個人をネットワーク化し、コーディネーターを育成したうえで、既存のリソースを生かしていく取り組みが提案されている。

概念図



【第3回話し合いの結果】

①地域の子育てのために何ができますか。②どうしたらそれを必要とする人に出会えますか。

分類	話し合いの結果	得票数	得票率	
市民一人ひとりの取り組みを重視するもの	①他人の子を叱る・誉める、老人との話し合い、パトロール、ごみ清掃 ②子育てとは、親の生き様(三位一体)	33	103 37.1%	
	①スポーツ(野球、サッカー等)、昔遊び、囲碁、将棋等のボランティアを楽しむ ②市役所、福祉会館等での登録、照会の仕組み作り	25		
	①地域の連帯の希薄化の解消 ②近所との交流を図る あいさつ、声かけ	17		
	①私たち自分が率先して声をかける ②媒体を作る(HP、自治会、子供会等を通じて)	15		
	①あいさつを交わす ②実践あるのみ	13		
地域活動の活性化を重視するもの	①市民一人ひとりが地域活動に関心を持ち、現状を知る ②自発的に町内会などの地域活動に参加する。	23	67 24.1%	
	①子どものための居場所、施設が多くあってほしい ②そういった場所に積極的に顔を出すこと	20		
	①意識・目線を変えてみよう！ギブアンドテイクの精神で優しくありましょう ②子供会、自治会、町内会、PTA、催事類への参加	13		
	①地域コミュニティ、自治体、子供会、スカウト活動の活性化 ②キャンプ、運動会、バーベキュー、クリーン運動、ファイアストーム等	11		
制度の設立・改善を重視するもの	①ボランティアの活用(子育てボランティア研修会の開催) ②「子育て投書箱」「SOS掲示板」「子育て愚痴こぼし電話」等設立	26	108 38.8%	
	①民生委員の活用を子育てにも広げる ②児童委員(子育て専門)を新たに増やす	20		
	①代行が支援する(家事手伝い、買い物、お迎え、悩み相談) ②登録センターを設立してほしい	18		
	①信憑性のある市の認定(?),市の責任の下でのボランティアスタッフ 例、それなりの報酬・対価を発生させる ②市の窓口による情報収集と管理を徹底(個人情報保護に抵触しない範囲で) 子どもの目線・気持ち	14		
	①活動の運営補助(資金面) ②コミュニケーションを図る為のイベントで、情報を伝える	10		
	①助けを必要としている人(外国人等)に対するボランティアの提供 ②外国語による情報提供、チラシ、ポスターの活用	9		
	①コミュニケーションを図る為のイベント及び施設の充実 ②お母さんのストレス発散の場の増設(託児所付スーパー、映画館、レストラン)	6		
	①公共物の提供(市の窓口でボランティア、エキスパートの紹介と育成) ②(有効活用)市の経済的支援	5		
	合計	278	278	100.0%

【第3回話し合い 残したい意見】

○親が自分の楽しみを見せる。学校などの特別課外授業 ○面白い大人を見せる。人生を楽しんでいる大人を見せて、あんな人になりたいと思わせる。そういう人と一緒に遊んだり、勉強したりする。 ○自治会や町内会への加入窓口の紹介(引っ越してきた時など) ○おじいちゃんやおばあちゃんの知恵を借りる。 ○必要なスタッフ・職員の確保(数、質ともに)・・・専門的なスキルのある人 ○より具体的な身体的・精神的パターン(発達障害、アレルギー、ボーダー等)に対応できるような策、人的リソースを整備してほしい ○婚活センターの創設 ○ボランティアといっても時間と少々のお金がかかるので、市として費用を援助してほしい

第3章 市民討議会の検証と評価

本章においては、「こがねい市民討議会2009」の検証と評価を行うとともに、ワークショップとの並行開催の結果についての検証と評価を行う。

1 市民討議会参加状況の検証

(1) 参加者数

「こがねい市民討議会2009」においては、小金井市が、住民基本台帳から無作為抽出した市民2000名に対し、参加依頼書を発送し、結果、44名から参加承諾をいただいた。うち、30名が最終的に、「こがねい市民討議会2009」に参加した。

2000名に対する最終参加者30名の割合は、わずか1.5%にすぎず、参加率は極めて低率であると言わざるを得ない。

その理由については、アンケートを実施していないため必ずしも明らかではないものの、①夏期休暇の時期であり、イベントその他行楽の予定が重なりやすい時期であったこと、②小金井盆にあたっていたこと、③週末2日間開催であったこと等が想定される。

今後市民討議会を開催するにあたっては、イベントが重なりにくい時期を選択すること、隔週・隔月開催を視野に入れること、報酬額を検討すること等、参加率を向上させるためのさらなる工夫が必要と思われる。

(2) 年齢構成比との比較

「こがねい市民討議会2009」においては、参加依頼書は、市の年齢別人口構成比に基づいて発送を行ったところ、実際の参加者は、30歳代、40歳代については、市の年齢別人口構成比に近似した参加率となった。

一方、20歳代の参加者は、市の年齢別人口構成比よりも低く、50歳代及び60歳代の参加者は、市の年齢別人口構成比よりも高かった。

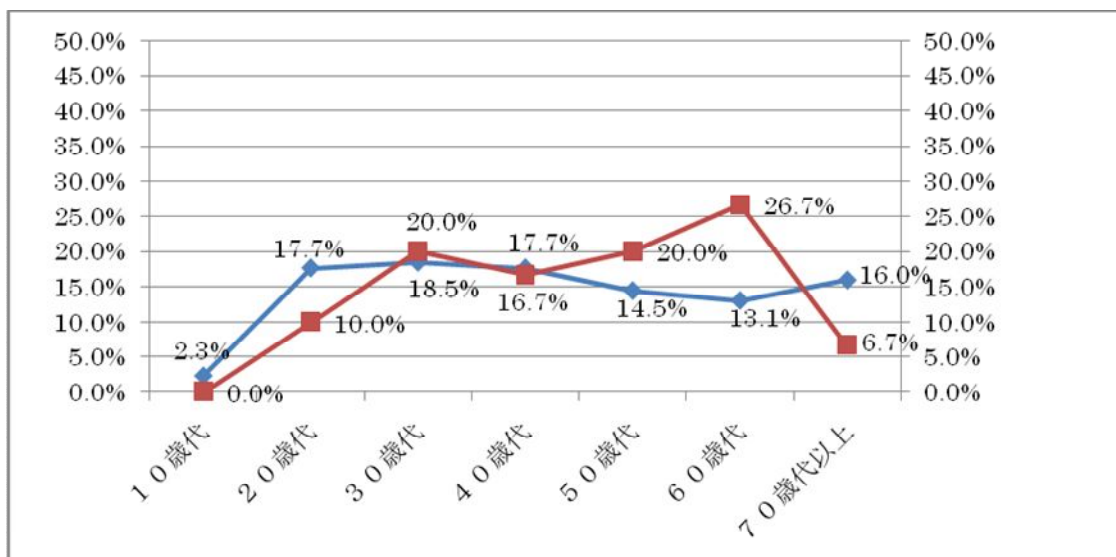
本年度は、子育て子育てという子育て世代に関心の高いテーマであったため、20歳代から40歳代までの参加率が、昨年と比較して高くなっていたものと思われるが、こうした世代の参加率が向上した点は、一定の成果であると認められる。

今後は、20歳代から40歳代までの世代の参加率が低いことを想定の上、無作為抽出数を調整することも検討の余地がある。

【市の年齢構成比と参加者の年齢構成比の比較】

	市の人口構成比(※1)		参加者の年齢別構成比(※2)				
	男性	女性	男性	女性	無回答	合計	
10代(※3)	1.2%	1.1%	0.0%	(0)	0.0%	(0)	0.0%
20代	9.5%	8.4%	0.0%	(0)	10.0%	(3)	10.0%
30代	9.6%	8.9%	16.7%	(5)	3.3%	(1)	20.0%
40代	9.1%	8.6%	6.7%	(2)	3.3%	(1)	6.7%
50代	7.4%	7.1%	10.0%	(3)	10.0%	(3)	20.0%
60代	6.2%	6.9%	13.3%	(4)	13.3%	(4)	26.7%
70代以上	6.5%	9.5%	3.3%	(1)	3.3%	(1)	6.7%
合計	49.5%	50.5%	50.0%	(15)	43.3%	(13)	6.7%

—◆— 市の年齢構成比 —■— 参加者の年齢構成比



2 プログラムの検証

(1) 実行委員会における小テーマ決定

「こがねい市民討議会2009」実行委員会は、子育て支援団体関係者をアドバイザーに迎え、専門家等による講演を実施する等、子育て問題に関する研究を重ねながら、公募委員を含めた各委員からの提言をもとに、3つの小テーマを取りまとめた。

実行委員会では、子育て支援を巡る各委員の意見が対立することもあったが、議論を重ねながら、地域全体による子育て支援のあり方を問うという、一定の方向性を打ち出すことができた。

(2) 情報提供の在り方

各小テーマにおける話し合いの前提となる情報提供においては、可能な限り複数の異なる視点から、偏りのない情報提供を心掛けた。

一方で、事後アンケート結果をみると、情報提供の内容について偏りがあると回答した市民が、各情報提供において20%程度存在し、また、情報提供が話し合いの参考にならなかったと回答する市民も少なからず存在した。

市民から有効な話し合いの結果を引き出すことの難しさを改めて実感し、今後、市民討議会のプログラム作りには、さらに、学識経験者、コンサルタント等のアドバイスを参考にしていく必要がある。

また、討議結果については、実現性の高い提案を行うことができたと回答する市民が25.81%存在する一方、十分な提案ができなかったと回答する市民が54.84%存在した。

十分な提案ができなかったとする理由は、たとえば、現状に対する理解の不足が33.33%、専門的知識の不足が8.33%であったが、これらは、昨年度の反省を踏まえ情報提供の回数を増加させたことが奏功し、昨年度（現状に対する理解の不足が54.5%、専門的知識の不足が31.8%）よりも改善されている。

3 市民討議会とワークショップの並行開催の検証と評価

(1) 並行開催の意義

小金井青年会議所と小金井市は、「こがねい市民討議会2009」において、無作為抽出型の市民討議会に並行して、公募型のワークショップを開催した。

ワークショップでは、保護者（男性）、保護者（女性）、子育て支援団体関係者・保育士等を公募し、テーマである「子育て・子育て」に深いかかわりのある関係者により話し合いが行われた。

そもそも、市民討議会は、いつも同じ人が参加しているという、従来の公募型の市民参加手法に対する批判から導入された経緯があり、そのために、住民基本台帳からの無作為抽出という手法を採用し、討議会の参加者を、市の縮図に近づけるという試みを行い、サイレントマジョリティからの意見抽出を目指している。

しかし、市民討議会における参加者の意見が、これまでの公募型の市民参加手法による参加者の意見と、実際に異なる結果となるのかは、これまで、何らの検証もなされていなかった。

そこで、「こがねい市民討議会2009」では、全国に先駆けて、無作為抽出型の市民討議会と、公募型の子育て利害関係者・専門家によるワークショップを並行開催することにより、市民討議会の手法の検証を行うとともに、市民の声を多角的に市政に反映させることを目指した。

(2) 並行開催の検証

無作為抽出型の市民討議会と公募型のワークショップにおいて、話し合いの結果の大まかな方向性が一致していた。

利害関係者が多く参加するワークショップでは、支援制度や補助金の充実等、言わば「お金のかかる」政策実現を望む声が多く出るとも想定されたが、実際には、保護者の孤立感・孤独感の問題等、別の次元の悩みを多く抱えていたことがわかり、この問題は、市民討議会における参加者間でも共有されていた。

市民討議会では、無作為抽出という特性が発揮され、利害関係や既存の考え方・価値観にとらわれない自由な発想に基づくアイデアが多数顕出された。

反面、市民討議会は、必ずしも、専門知識や現状理解が十分な子育て中の保護者・専門家のみが参加するわけではなく、情報提供によりある程度これを補うことができるとはいえ、話し合いの結果は、抽象論にとどまるものも多い。もっとも、当然ながら、参加者には子育て中の「利害関係者」も多く含まれていたものであり、世代間の対話、相互理解を通じて、悩みを共有する過程を踏み、提言されたものであることに意義がある。

具体的アイデアの抽出という意味では、ワークショップが優れている面が多く、ワークショップでは、切実な悩みに直面している保護者、関係者から、具体的なアイデアが多数提言された。

しかし、その実現には、利害関係者以外の協力（たとえば、子供のいない家庭なども含めた地域全体の理解等）が不可欠な場合も多い。市民討議会は、無作為抽出とメンバー入れ替えにより、多様な価値観を持つ者同士の対話が行われるから、その意味では、利害関係のある市民、利害関係と無縁な市民とが一つのテーブルでの対話を経たうえでの討議会の結論に、より市民提言としての意義があると思われる。

市民討議会の意義は、何よりも、無作為抽出された市民が、メンバーそれぞれの立場を尊重して話し合い、共感、共有する過程を経て、グループの意見をまとめあげるところにある。

利害関係者・専門家による話し合いであるワークショップの結論と、利害関係者・

専門家以外の市民も含めた多様な市民による話し合いである市民討議会の結論とは、優劣をつけるべきものではなく、市民参画手段の多様化という視点から、いずれも重要なものと位置づけるべきである。

今後、両者の特性を活かすためには、たとえば、ワークショップで出された具体的な提言を、市民討議会においてさらに話し合うという方法も検討に値しよう。

あとかき ～「こがねい市民討議会2009実行委員会」に参加して～

私は、市報に掲載されていた「こがねい市民討議会2009実行委員会」に、公募委員として参加させていただきました。

今回、「子育て・子育ち」というテーマで、当日にご参加される市民に討議していただく為に、実行委員会では小テーマの選定や当日の運営方法など、毎回、たいへんに意義深い議論を積み重ねてまいりました。

このような場に参画することが初めてだった私としては、大きな勉強をさせていただくことのできた機会でした。

さて、「こがねい市民討議会2009」を開催した趣旨ですが、本年4月2日に、小金井青年会議所と小金井市とが、市民討議会の実施に関するパートナーシップ協定を締結し、小金井市の「第4次長期総合計画」の基礎資料に資するべく、「こがねい市民討議会2009」を開催する動きが始まりました。

以来、小金井青年会議所会員、市報に掲載されているのを見て応募した公募委員からなる実行委員会を組織し、「『子育て・子育ち』を一緒に考えよう」をメインテーマとしてとらえ、8月1・2日に、市民の方々をお迎えして「こがねい市民討議会2009」を開催する運びとなりました。

市民の側からの働き掛けにより行政を動かし、民間と行政の協働により新たな「まちづくり」への手法が誕生したことは、小金井市にとって大変に意義のあることと思えました。

「こがねい市民討議会2009」は、小金井市を「子育て・子育ち」に良い街にするためにはどの様にしたら良いか等、小金井市の目指すまちづくりの方向性を自由に討議していただいた貴重な機会でした。

メインテーマが「子育て・子育ち」といっても、私事ですが、子どもがいなくて結婚をしていない私にとっては、「子育て」の機会や知識が全く無いために、他の実行委員の方々にご迷惑を掛けたことも少なからずあったと思います。

しかし、「こがねい市民討議会2009実行委員会」に参加させていただき、はじめて「自分もこがねい市民なんだ！」という自覚を抱き、「こがねい」という素晴らしい街を、とても好きになりました。

「こがねい市民討議会2009」に微力ながら関わらせて頂けたことに、心から感謝します。

本当に、ありがとうございました。

こがねい市民討議会2009実行委員会
公募委員 前田 雄一郎

こがねい市民討議会 2009

実行委員

公募委員	浅野由美
	内田真奈美
	遠藤圭司 (起草委員長)
	杉山直司
	高橋久八
	藤原康弘
	前田雄一郎 (副実行委員長)
	松永智美
小金井青年会議所	秋元仁典
	天野竜一
	曾根隆寛 (事務局長)
	高岡裕 (副実行委員長)
	信山重広
	町田裕紀 (実行委員長)
	村越鉄平
吉田安之	
アドバイザー	高橋雅栄 (子育てサロン@SACHI)

(敬称略・五十音順)

参 考 资 料